

都市型人工海浜を核としたまちづくりに関する研究

－（その2）地域住民主体で運営される「ふるはま売店」の事業経緯と運営について－

A Study on the Regional Planning and Community Design in Urban Beachfront

-(Part 2) About the business process and the management ways of the “Furuhama-baiten” stand established by local residents -

○寺尾光優¹, 岡田智秀², 松岡七海¹

* Miyuu Terao¹, Tomohide Okada², Nanami Matsuoka¹

Abstract: The purpose of this study is to clarify the business process and the management ways of the “Furuhama-baiten” stand established by local residents. As a result, this paper clarified the development process of the “Furuhama-baiten” stand and the effect of this project.

1. 研究目的; 前稿(その1)では、東京都内初の区立人工海浜公園“大森ふるさとの浜辺公園”(図1, 以下; 「ふる浜」)の整備プロセスと現状の実態について、主に行政の取り組みを中心に捉えてきた。そこで本稿では、「ふる浜」の維持・運営に関わる地域住民に焦点を当て、その体制と具体的取り組みおよび「ふる浜」の拠点施設である「ふるはま売店」¹⁾の設立経緯と運営上の留意点を明らかにする。

2. 研究方法; 以上の目的を踏まえ表1に示す調査を行った。

3. 結果および考察

(1)「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」; 「ふる浜」では多くの団体が活動しているが、中でも造成当初から「ふる浜」の整備方針検討や維持・運営について、区行政と連携して中心的な役割を担ってきた組織が「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」である。その体制を示した表2からわかるように、本会は7団体で構成されている。



表1 調査概要 [筆者作成]

調査項目	文献調査	現地調査	ヒアリング調査
日時	平成30年6月1日(金)～9月23日(日)	平成30年6月25日(月)	平成30年8月27日(月)
対象	当該公園に関する既往研究 ^{3)～7)} やWeb ^{8)～12)} および大田区にて発行されているパンフレット ^{13)～17)}	現地踏査による利用実態・施設設置	北山輝夫氏(ふるはま売店運営協議会代表)
目的	当該公園の造成経緯と造成後のおよそ10年間で当該公園を中心としたような活動や利用が行われてきたのかを把握するため	当該公園の拠点施設や売店、ビーチバレー場等の整備状況を把握するため	・ふるはま売店の設立経緯 ・ふるはま売店の運営状況 ・地域住民の取り組み内容 以上3項目を把握するため

その事務局は大田区役所の「大森まちなみ維持課」であり、本会の設立費や現在の活動費などを負担している。その本会の中でも主要な団体が「ふるはま売店運営協議会」である。

(2)「ふるはま売店」の設立経緯; この売店は、「ふる浜」

が開園した平成19年の夏、「ふる浜」設立に関わった地元有志により、バケツにどぶ漬けた飲料水販売を試行的に実施したのが始まりである。しかし、平日を含めて2週間にわたって販売を行うも、来園者のその反応は芳しくなかった。これは、当時の園内には日除けとなるテントすらなかったため、日陰の中で飲料を飲みつつ周囲の景観を楽しむと表2「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」の組織図 [参考文献^{8)～10)}をもとに筆者作成]

	概要
大森ふるさとの浜辺公園を育てる会	【経緯】開園に伴い、平成19年7月に「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」として「区民、とりわけ近隣地域住民と区が協力し、大森ふるさとの浜辺公園を区民に親しまれ愛される公園に、また、子どもたちが将来、ふるさとして訪れる公園に育てていく」という活動理念のもと設立した。 【活動】毎年活動報告会を行う他、区と連携して整備方針検討を行っている。
大森ふるさとの浜辺公園をつくる会	【経緯】「ふる浜」造成当時の計画段階である平成14年に発足した「大森ふるさとの浜辺公園を考える会」から、平成15年10月の計画段階において発足し、「近隣住民と区が協力して「ふる浜」を市民に親しまれ愛される公園に、また子供たちが将来ふるさとして訪れる公園に育てていく」という活動理念のもと設立した。 【活動】区民が主体となって各種活動やイベントを実施している。
羽田ビーチクラブ	【経緯】自発的に参加したこの団体は、主宰の井坂啓巳氏の理念である、「夏だけ・屋間だけ行楽に行き海水浴のみ行うのではなく、一年中いつでも気軽にビーチスポーツや浜辺が楽しめる空間をつくる」という思いから設立した。 【活動】大森ふるさとの浜辺公園に来場するすべての人を対象に「浜辺(ビーチ)遊び、スポーツ・自然体験」を提供するボランティア団体として主に第3日曜日の午前中に活動を行っている。
ふるはま売店運営協議会(近隣5商店会のメンバー)	【経緯】当該公園近隣の5つの商店街(大森ミナハラ通り仲間商店会、東1丁目商店会、大森南栄会、大森本町ミナハラ通り北商店会、するがや商店会)により、平成19年7月に設立された。 【活動】「ふるはま売店」の営業を行っている。
除草ボランティアのメンバー	【活動】ボランティアとして公園内の除草作業を行っている。
NPO 法人多摩川センター	【経緯】多摩川およびその流域において次世代への命の継承の根源をなす健全な河川環境の保全・回復等に資するため、河川と水環境を中心に節度と良識のある社会形成に寄与する事を目的として、平成20年1月に設立した。 【活動】ふる浜およびその周辺を対象として工事着手前から工事中・工事後と継続的に鳥類・魚類・植物をはじめとする河川環境を状況把握することを目的として年間12回に渡る鳥類調査や観察会を開催している。
NPO 大田・花とみどりのまちづくりのメンバー	【経緯】東京都大田区をフィールドにボランティア活動を通じて地域の緑化と緑の普及啓発を行い、豊かさや潤いのあるまちづくりを目的として平成14年12月に設立した。 【活動】大田区内のさまざまな場所で、花とみどりを守り育てる活動に2取り組む定期活動のほか、一般市民にも花とみどりの活動に参加してもらえるようなイベント(OTAふしあひフェスタ)や講座なども企画している。
NPO 法人大森海苔のふるさと会	【経緯】海苔づくりの歴史と文化を次世代に伝えることを通じて先人や地域への愛情を育んでいくことを目的として、平成20年1月に設立した。また海苔づくりを可能にできた海辺の自然を学ぶことを通じて、身の回りの環境に目を向けるきっかけを作り出すための組織。 【活動】平成30年から大田区より大森海苔のふるさと館の業務を受託されており、館内や「ふる浜」をフィールドとしたイベントを開催している。

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

いった需要が見いだせなかったことが一因と考えられた。そこで、「ふるはま売店運営協議会」は簡易な売店整備を提案し、翌年(平成 20 年)には「ふるはま売店」(写真 1)と日除けの休憩施設であるパーゴラのほかローラースライダー等の遊具を整備した。その後、売店運営は一度も赤字なく継続でき、それが奏功して売店設置から 10 年目の昨年(平成 29 年)、売店とレストランを併設したレストハウス(写真 2)の建設に至った。これは、旧売店と旧トイレを移設・一体化し整備敷地の地盤面の嵩上げを行うことで「ふる浜」の全景が一望できる新たな中心的ビュースポットとして誕生した。

(3)「ふるはま売店」の設立効果; 売店運営にあたっては、区行政の方針として、「ふる浜」の後背地に広がる 5 つの商店街(図 1)を対象として、各商店街から代表者を集め、その中で共同運営を行う体制とした。これは、「ふる浜」の周辺地域の全体に向けた活性化策として高く評価できよう。その副次的な発現効果として、旧東海道ミハラ通りに面する 4 商店街が、東海道ゆかりの地を具現化するファサード整備に取り組むことになった。その際、当売店運営に初期から尽力しているミハラ通り北商店会の北山輝夫氏を中心に、平成 24 年に 4 商店街の中で全 50 店舗にもわたって情緒漂う格子暖簾や庇などのファサード整備が実現した。この事業費は 1 億 5 千万円にのぼったが、うち 9 割強を景観整備事業として東京都と大田区が助成し、残り 1 割弱は地元信用金庫から無利子融資によって遂行された。この成功裏には、当売店の設立前には個別で取り組んでいた各商店街が、売店運営を契機に地元地域の活性化に対する価値共有と意思疎通が図られたという「ふる浜」効果によるものであった。

(4)「ふるはま売店」の運営実態; 「ふる浜」の全体利用者のピークは、春の大型連休と夏休み期間であり、売店利用客もこの時期をピークに 1 日 20 万円ほどの売上げになるといふ。人気はカキ氷等の水菓子類であり、子供や家族連れを中心に利用客が列をなす。売店収益は、食料品の仕入れや大田区へ支払う施設占用料のほか光熱費等に充当し、商店会や町内会等からの支援金やその他助成金等は一切なく独立採算である。さらに、昨年(平成 29 年)に「大森東水辺スポーツ広場」が園内に新設され、若年利用客が増加している。その他、平成 20 年度より継続している「OTA ふれあいフェスタ」や「ビーチバレーボール大会」、さらに昨年度から 21 町会により開催されている「ふる浜まつり」への出店も大きな収益源であり、閑散期の減収を補う策として役立っている。併設レストランのメニューは、客層に合わせた工夫がみられ、運動直後でも食べやすい調理パン系のほか、乾いたのどを潤したり、海浜の眺望を楽しみながらお酒を飲みたい人向けに、背後商店街の情報を通じて、ワインを独自ルート

で取り寄せるなど、適正価格と多様なニーズに配慮している(写真 3)。開園当初からの期待は、現在イベント時のみ屋外使用が許可される火器類の日常使用による「浜焼き広場」の実現である。前面の埋立地には新鮮な青果や魚介類が全国から集まる大田市場(図 1)があり、それと連携した「浜焼き」は一考に値しよう。なお、売店の指定管理者制度を用いた大手資本導入の声も一部あるようだが、本稿で明示したように、現体制の地元メンバーによる対面販売により、地元ならではの会話や、コミュニティが生まれ、メンバーらの「ふる浜」を支えるという熱意と誇りが高まっている。その証左として、売店利用客だったサクソ奏者の協力により、サクソコンサートの開催も実現している。

以上より、本稿では「ふるはま売店」の運営が後背地の商店街とのネットワークの核となると同時に、ビーチアクティビティの受け皿として大きな役割を担っているなど、その存在意義を明らかにした。特に売店メンバーは、対面販売を行うことで、利用客をもてなすことに誇りを持っており、「ふるはま売店」が地域を育てている様子が伺えた。今後は、恒常的な火器類使用(浜焼き広場)と海側の大田市場との連携が大いに期待されることである。



写真 1 「ふるはま売店」 [筆者撮影 (2018.7.15)] / 写真 2 レストハウスからの眺め [筆者撮影 (2018.8.27)] / 写真 3 「ふるはま売店」メニュー [筆者撮影 (2018.7.15)]

謝辞: 本調査にご協力頂いた北山輝夫氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献: 1) 岡田智秀ほか著: 「ランドスケープデザイン」, No.80, pp.30-35, マルモ出版, 2011.10 / 2) Google マップ HP, <https://www.google.co.jp/intl/ja/streetview/> (最終閲覧日: 2018.9.23) / 3) 平岡昌樹ほか 4 名: 「かつての海の文化性からみた今後のまちづくり方針の提案」, 日本大学理工学部建築学科卒業研究論文, 2010 / 4) 鈴木真平: 「地域住民の日常利用を促す都市部の人工海浜整備に関する研究」, 日本大学理工学部海洋建築工学科卒業研究論文, 2008 / 5) 鈴木伸吾ほか 2 名: 「地域住民の日常利用を促す都市部の人工海浜整備に関する研究—東京湾沿岸の人工海浜 9 事例を対象として—」, 日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻修士論文概観集, No.16, pp.39-44, 2009 / 6) 杉野弘明ほか 5 名: 「大森ふるさとの浜辺整備事業に見る海洋環境修復事業に伴う持続的合意形成の形」, 土木学会論文集 B-3 (海洋開発), Vol.72, No. 2, pp.1838-1843, 2016 / 7) 里見勇ほか 2 名: 「大森ふるさとの浜辺整備事業—事業実施と合意形成のプロセス—」, 海洋開発論文集, Vol.20, pp.299-304, 2004.6 / 8) 羽田ビーチクラブ HP, http://genki365.net/gnko05/mypage/mypage_group_info.php?gid=G0000012 (最終閲覧日: 2018.9.23) / 9) 日本経済新聞 HP, <https://www.nikkei.com/> (最終閲覧日: 2018.9.23) / 10) NPO 法人多摩川センター HP, <http://www.tamagawa-c.jp/> (最終閲覧日: 2018.9.23) / 11) NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり HP, <http://hanamidori.sakura.ne.jp/> (最終閲覧日: 2018.9.23) / 12) 大森海苔ふるさと館 HP, <http://norinoyakata.web.fc2.com/07npo.html> (最終閲覧日: 2018.9.23) / 13) 大田区役所地域基盤整備: 「区立初大森ふるさとの浜辺公園の完成まで」(レジュメ) 2018 受領 / 14) 大森ふるさとの浜辺公園を育てる会事務局: 「大森ふる浜だより」, No. 1, 大森まちなみ維持課, 2009.4 / 15) 大森ふるさとの浜辺公園を育てる会事務局: 「大森ふる浜だより」, No. 2, 大森まちなみ維持課, 2010.4 / 16) 大森ふるさとの浜辺公園を育てる会事務局: 「大森ふる浜だより」, No. 3, 大森まちなみ維持課, 2011.3 / 17) 大田区役所地域基盤整備第一課: 「大森ふるさとの浜辺公園大森東水辺スポーツ広場」(パンフレット) 2018 受領